

浜 大介 作詩  
白石 十四男 作曲・編曲

## 瑞穂音頭

三橋 美智也

△三味線△豊文・豊静

△唄ばやし△白瀬春子

白瀬孝子

白瀬春駒

△振付△三藤祥園

キングオーケストラ

△ハア

花の瑞穂は 六道山の

桜吹雪で 春が来る (ソレ)

狭山丘陵 緑に萌えて

町を彩る 紅つつじ

※サテ 茶の香 花の香 瑞穂の町は

夢と平和の 輪が開く

※唄ばやし以下くり返し

△ハア

狭山銘茶は 瑞穂が産地

香り白慢は 日本一

西も東も 朝霧晴れて

空にゃ五月の 揚げひばり

△ハア

好いた同士が 肩寄せ合えば

風もささやく 狭山池

恋の逢瀬は 村山紬

艶な姿の 水かがみ

△ハア

富士を南に 秩父を北に

眺め千里の お伊勢山

平和・団結 飛躍を辿り

未来豊かな 郷土づくり

(3分04秒)

# 瑞穂音頭

△振付▽三 藤 祥 園



五つの振りに手拍子を入れ、繰り返し、明るく愉しそうに踊って頂きます。曲の最後は手拍子を打ったところで終わりますが、二回、三回と続ける場合は其の儘切らずにお続け下さい。

円になる場合は、時計の反対方向に回ります。流し踊りの場合には、五の振りも進行方向でおやり下さいませ。

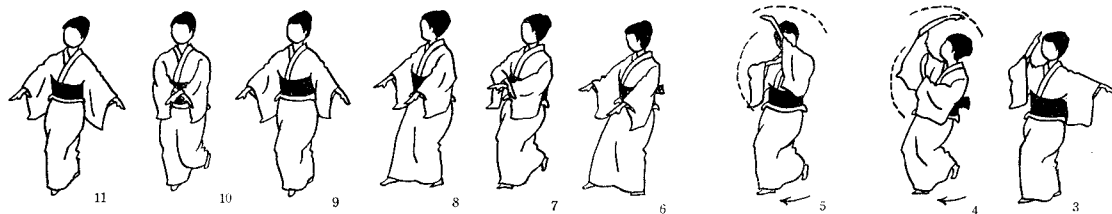
## 最初

八呼間聞き、チヨチヨンがチヨンと手拍子を打ち、

(図一)

## 一の振り (八呼間)

左手顔のわきに立て、右手横に伏せのぼし、右足一歩出し、次に、右手を顔のわきに



立て、左手横に伏せのぼし、左足一歩出し、これで八呼間に四歩前進。(図二、三)

## 二の振り (八呼間)

右手を下から大きくすくい上げ右側を眺め、左手を添え、同時に右足より三步前進して左足が後に弾み上り、次に、反対動作で左手大きくすくい上げ左側を眺め、右手を添え、同時に左足より三步前進して右足が弾み上ります。

(この時御注意下さることは、身体ごとピヨンと跳ばぬよう、片足が軽く上るだけです。)(図四、五)

## 三の振り (八呼間)

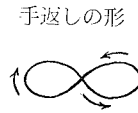
上っている右足を、右斜め前に、二度サッサッと出しながら、両手を前で交差させ、足を出す時に、二度開きます。反対動作で、左足も斜め左前に二度サッサッと出しながら、両手を交差させては二回開きます。(図六、七、八、九、十、十一)



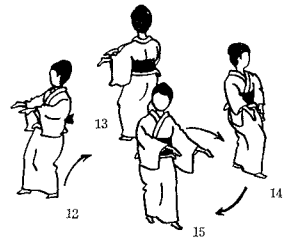
17



16



手返しの形



四の振り (八呼間)

両手を交互に手返ししながら、右足より四歩で円心に向くように右回り、(但し流し踊りの場合は右回りで進行方向まで向きませ)

手返しは、右足が出た時は、右手のひら上向き、左手は伏せて右へ流し、左足出した時は両手を、返し左へ流し、四回右へ左へ返します。

(図十二、十三、十四、十五)

五の振り (八呼間)

円心に向き、両手伏せて一旦下で大きく交差させたものを、上方高く開き、同時に右足より三步入って、左足後に弾み上り、胸を張って頭上を見上げ、左足より三步後退しつつ、両手を下に戻して外側から円に上げかざし一束に揃えて、 (図十六、十七)

手拍子

チヨチヨンがチヨンと手拍子で進行方向にきまり、一の振



18

りへと続きます。

(図十八)

前奏の八呼間きいてから始めますから

一、ハア！……一番の唄い出しのところは丁度三の振りの反対動作のところにあります。